

就職して間もない頃、朝礼で尊敬する先輩方が自分の失敗事例を発信されていました。「先輩でも失敗するんだ…」と思ったのと同時に「この職場は失敗を隠さずにオープンにすることが普通のことなんだ」と衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。

今は私も、自分が失敗したことを誰かのためになればと発信できるようになりました。コープみやぎでは「自分の失敗（成功）を他人のことのように研究する、他人の失敗（成功）を自分のことのように学ぶ」ことを大切にしています。

失敗をオープンにしてそこから一人ひとりが「学ぶ」という職場風土。これも「誰かのために」につながっていて、私もそのような行動ができるようになったことに喜びを感じています。

それともうひとつ、周りの先輩方からは「まずはやってみてごらん」「できている人の事例が100通りあったら100通り全部やってみるといいよ」というアドバイス。前向きになれる勇気をもらえます。

「まずはやってみる」ことを積み重ねていくと、組合員さんに「ありがとう」の言葉をいただいたく場面が増え仕事のやりがいにつながっていました。心に残っている組合員さんとのエピソードを紹介します。

ご高齢の組合員さんの納品書に共済の引き落としが記載されていて、子どもさんが加入できる【たすけあいジュニアコース】に入られていることに気づきました。その方から子どもさんのお話を伺ったことがなかったので、聴いてよいものか悩みました。勇気を出して「この共済はどなたにかかられているんですか？」と尋ねてみました。すると、お孫さんが県外でサッカーをされていることを話してくださり、「保障の内容を詳しく知らない」とおっしゃったので、一緒に共済のパンフレットを開きながら内容をお伝えしました。

帰り際には「この子には私がお守り代わりに共済をかけているの。これまで担当の方からこのことについて聴かれたことがなかったわ。人には言いにくい家族のことだけど、あなたが聴いてくれて話せてよかったわ。ありがとう」と話してくださいました。

私はこの時、勇気をもって聴いてみてよかったと思いました。「誰かのお役に立ちたい!」と一歩踏み出し行動にうつせるようになったのは、コープみやぎで働き、関わってくださった先輩方のおかげです。

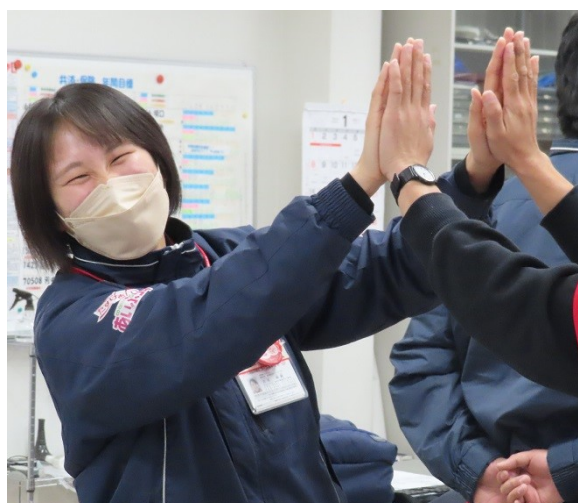
これまでは「誰かのために」一歩踏み出し行動にうつすことができなかった私。今では「誰かのために」行動し、役立ち喜ばれた時の嬉しさが、私自身の成長につながっていることを感じています。

これからもコープみやぎで働き続けたいと思っています。私が幸せを感じてきた「食」や「くらし」「家族の団らん」。これからも、組合員さんはもちろん私自身のくらしも豊かにしていきたい。

Mao Shiraishi

失敗してもそこから学べばいい **まずはやってみる**ことを学んだ





誰かのために行動できて 感じる幸せ

私は新卒でコープみやざきに入協して4年目になります。所属は共同購入事業で、組合員さんのご自宅にトラックで商品をお届けする仕事をしています。

この4年間で私自身が一番成長できたと感じることは、「誰かのために役立ちたい!喜ばれたい!」という気持ちで自然に行動ができるようになったこと。相手に役立ち喜ばれることを毎日考えて仕事をしていると、私生活でもさまざまなことに気づけるようになり、相手の気持ちになって行動ができるようになりました。

就職活動をしている中で、これまでの人生を振り返った時に、家族と一緒に食事をしながら団らんする時間が一番「しあわせ!」なひと時だったことに気づきました。子どもの頃から父に言われていた「食べられることに感謝し『いただきます』『ごちそうさま』を言うことを大切にしろ」ということ。

そして母は、食事やいろいろな物事の向こう側で支えてくださっている方がいることに感謝して、普段から「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える人でした。

やがてコープみやざきで働く中、父や母が言っていたことに共感できるようになり、自然と「二人のような人になりたい」と思うようになりました。私がこんな風に思えるようになったのも、働く中で感じる「感謝すること」や「誰かのために役立ちたい!喜ばれたい!」を大切に行動できるようになったからだと思えるのです。